

モノレール新駅設置に関する要望

市は門真市と共に、大阪モノレール南伸事業(門真市駅から(仮称)瓜生堂駅約8.9キロメートル)の事業化に伴い、門真市駅と(仮称)門真南駅間に新たな駅を設置することについて、10月30日に大阪府に、11月2日に大阪モノレール株式会社に対して要望書を提出しました。



上:大阪府に要望書を提出
下:大阪モノレール株式会社に要望書を提出



問 都市・交通計画課
Tel 06-6992-1685
Mori_toshikei@city-moriguchi-osaka.jp

「ありがとう」の思いを乗せて、出発進行! 大阪モノレール「ブルーエール号」運行中



問 広報広聴課
Tel 06-6992-1353



← 大阪大学医学部付属病院のスタッフの皆さんとブルーエール号



→ 市立豊中病院のスタッフの皆さんとブルーエール号

(写真提供:大阪モノレール株式会社)

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっている今年、外出自粛などの動きが広がる中、命を守るため、多くの医療従事者が第一線で尽力されています。

そんな医療従事者に感謝と応援の気持ちで込められた大阪モノレールのラッピング車両「ブルーエール号」が、11月3日から運行されています。

「ブルーエール号」ができるまで

緊急事態宣言が発令されていた4月。ある乗客から「医療従事者の方々に感謝を、患者の方々には励ましのメッセージを描いた車両があればすてきなと思います」という提案があったことをきっかけに、若手社員を中心としたプロジェクトチームが発足し、ラッピング車両の実現に向けた取り組みが始まりました。

そこで、課題となったのがラッピング車両の制作費用ですが、この取り組みに、より多くの人々に賛同し、参加してもらうため、インターネットを通じて幅広い人から支援を募る「クラウドファンディング」が活用されました。

「ブルーエール号」のデザイン

車体は、医療従事者への感謝を表す「青・リボン・ハート」をメインに、いのちの象徴として「植物(草花)」のモチーフを用いて、生命力が表現されています。



また、車両ドア横には、感謝を伝えるハートマークが掲出され、沿線市の各市長直筆の「ありがとう」というメッセージとキャラクターが添えられています。守口市からも、西端市長のメッセージとシンボルキャラクター「もり吉」が掲出されています。

そして、車体の側面には「医療従事者のみなさま ありがとう」、正面には「コロナに打ち勝とう!」というメッセージが掲げられ、医療従事者をはじめとした全ての人が希望を持ってコロナ禍を乗り切っているようにという願いが込められています。

「ブルーエール号」出発式

11月3日に大阪空港駅で行われた出発式では、集まった来賓の皆さんの前で、大阪モノレールの井出社長や一日駅長を務めるタレントの斉藤雪乃さんがあいさつを述べました。

テープカットの後、来賓や招待客の皆さんを乗せ、大阪空港駅長の発車合図により、いよいよ「ブルーエール号」一番列車が出発!

途中、沿線の市立豊中病院と大阪大学医学部付属病院の前で一時停車し、乗客が感謝とエールの気持ちを込めてハンカチを振ると、医療従事者も手を振り返すなど、感動的な場面もありました。

ブルーエール号は、1年間営業列車として運行されます。モノレールでお出掛けの際は、ぜひ車体のラッピングにも注目してみてください!

